

2002年9月17日

## 見やすく使いやすくなった 新しい点眼容器「ディンプルボトル」を導入

参天製薬株式会社(大阪市、社長:森田隆和)は、これまでの点眼容器の利点を継承しながら、「見やすさ」「使いやすさ」をさらに向上させた新容器「ディンプルボトル」を開発しました。10月から抗炎症点眼剤「プロラノン点眼液」に採用するのを皮切りに、今後、当社の医療用点眼剤の容器を順次「ディンプルボトル」に切り替えていきます。

「ディンプル(Dimple)」とは、“小さなくぼみ”を意味する英語で、新容器の側面中央部には、その言葉のとおり両サイドに「くぼみ」がついています。「ディンプルボトル」の主な特徴は、下記のとおりです。

### 識別性(見やすさ)の向上

- ・ 製品名などの表示が大きくなりました
- ・ ボトルの両サイドから残存量が確認できるようになりました
- ・ 大きなキャップと分かりやすい色分けにより、製品の識別が容易になりました
- ・ 不正加工防止のため、シュリンクフィルム包装を採用しました

### 利便性(使いやすさ)の向上

- ・ 容器胴部が長くなり、中央部のディンプル(くぼみ)により、持ちやすく、点眼しやすくなりました
- ・ 開封しやすい斜め開封のシュリンクフィルム包装を採用しました
- ・ 開閉しやすいキャップを採用しました



眼科薬のリーディング・カンパニーとして、参天製薬では今後も患者さんの QOL 向上に貢献する薬剤・剤型の開発に努めてまいります。

以上